

# 令和6年度 牡丹焚火俳句大会 講師紹介

講師 高田正子(たかだ・まさこ)先生

演題 「青邨の黒牡丹、杏子の白牡丹」

略歴 1959年岐阜市生まれ。90年「藍生」(黒田杏子主宰)創刊と同時に入会。  
2023年8月「青麗」設立(創刊は24年1月)、主宰。  
句集に『玩具』、『花実』(俳人協会新人賞)、『青麗』(星野立子賞)、『自註現代俳句シリーズ 高田正子集』。  
著書に『子どもの一句』、『黒田杏子の俳句』、『日々季語日和』。編著書に『黒田杏子俳句コレクション』全4巻。  
公益社団法人俳人協会評議員、NPO 法人季語と歳時記の会理事、公益社団法人日本文藝家協会会員。中日新聞俳壇選者、田中裕明賞選者ほか。

## 高田正子先生の自選十句

涼しさや赤子にすでに土踏ます  
くみおきて水に木の香や心太  
千枚の田を貫いて天の川  
はつなつの大きな雲の翼かな  
剪定の一枝がとんできて弾む  
母もまた母恋ふるうた赤とんぼ  
父に湯たんぼ父に家捨てさせて  
明易や夢のつづきの旅仕度  
いちじくはいづこに実りても冥し  
再生の島いちじくがよく肥り

# 『令和6年度牡丹焚火俳句大会』について

## 1 目的

牡丹焚火は、桔槔吟社創設時から続く初冬の牡丹供養の行事で、大輪の花を咲かせてくれた牡丹に感謝し、その枯枝や櫛木を焚いて供養するものです。炎が少しずつ紫色を帯び、燗になってゆく様子が幻想的で美しく、訪れた人々を魅了します。昭和53年に初冬の季語として歳時記に収載され、多くの俳人が訪れる俳枕となりました。今年度も牡丹焚火俳句大会を開催し、当日、講演会も実施します。

2 主催 桔槔吟社、須賀川市、須賀川牡丹園保勝会

3 日時 11月16日(土) 午後2時講演会(会場：牡丹会館)

講師：高田正子先生

演題「青邨の黒牡丹、杏子の白牡丹」

午後4時30分牡丹焚火開始

午後6時10分投句締切(当日、投句料と引き換えに  
配付された投句用紙により牡丹焚火会場にて投句)

4 場所 須賀川牡丹園

5 講演会の聴講 申込先 須賀川市風流のはじめ館

申し込み 電話0248-72-1212(火曜日定休)

申込受付 令和6年10月18日(金)～定員に達した時点で締切

定員 60名

※桔槔会員は各句会ごとに参加者名をまとめて早めに申し込んでください。

6 投句条件 牡丹焚火又はその傍題を季語とし、投句は1人2句までとする。投句は当日、または締切までに郵送すること。

7 郵送投句 当日牡丹焚火に参加できない方の郵送での投句も可とし、投句方法は次のとおりとする。

(1) 同人・会員は桔槔10月号の綴込み投句用紙を使用。

(2) 同人・会員以外の方は便箋等に2句まで記載。

※(1)(2)とも住所、氏名、電話番号を明記し、投句料として1,000円の定額小為替を同封し下記まで郵送のこと。

宛先 〒962-0727 須賀川市小作田字荒町台36-1

江藤文字方 牡丹焚火俳句大会 宛

(3) 締切は11月19日(火)当日消印有効

8 投句料 2句1組1人1,000円(当日徴収・郵送の場合は定額小為替同封)

9 選者 高田正子先生、江藤文字、金子秀子、永瀬十悟(各選者による各特選者3名に色紙贈呈)

10 褒賞 優秀作品に賞品贈呈

11 結果発表 作品集を作成し全投句者に送付。また令和7年1月号桔槔誌上に発表する。